

ひやく ふ とう み も
百不当の身を以って
 師範会長の就任にあたり



平成9年11月15日
 第 12 号

題 字 大館市宗福寺 東堂
 加藤信三老師御染筆
 発行所 北秋田郡鷹巣町七日市
 龍泉寺内
 秋田県梅花流師範会事務局
 発行者 丹生 純 雄
 編集者 (広報部) 保坂春穂
 印刷所 北秋田郡森吉町米内沢
 (南) 武石印刷
 ☎ 0186-72-3319

今春の総会で、百不当の身を以て師範会長に就任しました。百不当とは秋田地方の方言では「そぐなれ」ということです。親が子をしかる言葉で「生れそぐなれ」と言い、私はよくしかられたものです。そぐなれは辞書では損なうとあります。

師範会の歴代の会長は、県の梅花を創世された方々で、梅花の普及にそれぐ手腕を振るわれ、秋田県内に百三十数講五千人以上の講員までに



発展させました。私はそぐなれではありませんが、幸いに前会長時代からの各お役のエキスパートの方々に、そのま、就任していただき、助けて下さいますので、その任を務めたいと思います。

師範会は本来師範詠範の研修と、講員の育成を目的とする団体であります。したがって自分達の研修にもっと力を入れ、会員の研修には「ドンドン基金」を設けましたので、ご活用をお願いします。

秋田県でも『梅花流全国奉詠大会』を開きたいという永年の願いがありました。今年大館に「樹海ドーム」が完成しました。広い駐車場があり、近くには多くの温泉と観光地を有する絶好の条件に恵まれています。皆さまの行願を結集して全国大会の開催を進めたいものです。

この春飛田正道先生の講習がありました。「梅花の指導は宗門の面授に当る」と言われました。高祖承陽大師様のお示しに「自己の面目は面目にあらざ如来の面目を面授せり」とあります。

雄 和 町
 相川寺住職

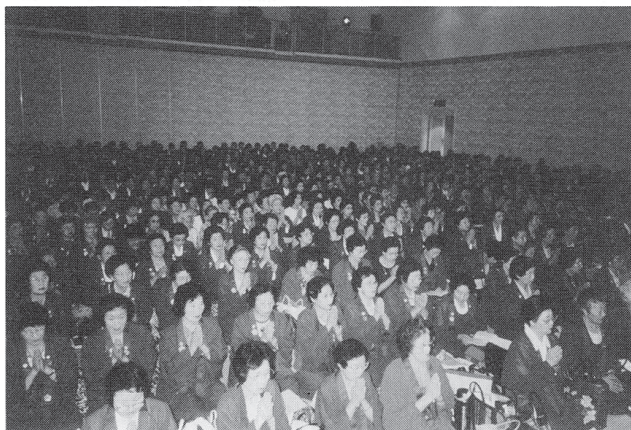
丹 生 純 雄

又、「今の一当は、むかしの百不当のお蔭である」とお諭しになられ。正法眼蔵随聞記には門下に示して「仏仏祖々も皆な本は凡夫

であり鈍も痴もあつた。しかし尽く改めて知識に随って修行したから、皆仏祖となった。自らを卑下せず、今生において強いて修せば必ず道を得るべきである」と。仏は、我等に志気を与えて下さいます。



盛会に開かれた秋田県奉詠大会



7月19日 県南大会（大内町）



7月25日 県北大会（上小阿仁村）

本間真英老師を偲んで



本間真英老師

秋田県梅花流育ての親のひとり、本荘市内黒瀬の恵林寺東堂本間真英老師が、昨年四月二十六日に七十五歳を一期として他界されました。

老師は本荘地区の梅花流の草分けとして、また県内梅花の指導教化にも尽力下さいました。すでに遷化より一年以上となりましたが、本葬儀の折の全心寺佐藤仁鳳老師の弔辞を掲げ、心より冥福をお祈り申し上げます。

弔辞 佐藤仁鳳

梅花流秋田県師範会の大先達、恵林寺東堂真英大和尚様の本葬儀に当り、師範会を代表して恭しく弔辞を捧げます。

——中略——

昭和三十年代前半、本荘地区に梅花の花が綻び、中央より大島師範をお招きしての講習会にお手伝いに馳せ参じてよりこの方四十余年の長いお付き合いでした。

貴師は事務能力抜群で、県北と県南の師範会が秋田県一本になるのを機に事務局を担当され、前々会長加藤老師を資け会計庶務の任に当りました。

名簿の整理、会則の整備、基金の創設等々本当にお世話になりました。両三回の全国奉詠大会の参加等思い出はつきません。

また、貴師でなければ思い付かなかった森岳、秋田、男鹿各温泉会場での奉詠大会と検定会の開催。昼は莊嚴にして厳肅に、夜は師範・講長・講員との和氣藹々の交流と、あれこれが走馬燈の様に頭をよぎります。

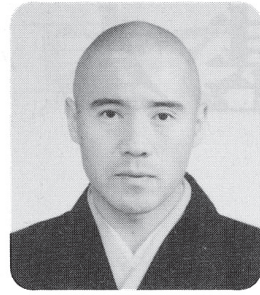
現在では県北と県南の奉詠大会、更に五年に一度の全県一致の奉詠大会と盛大に挙行する事が出来る迄になりました。秋田県も師範詠範が百八十余名、各々がその使命を胆に銘じて必ずや貴師の御心に添うべく努力する事を尊前にお誓い致します。

堂頭様は二級師範として梅花特派にお出になられた経験を生かし、恵林寺梅花講はもちろんの事、秋田県の梅花の為にお力を頂きます。ゆっくりお休み下さい。

大寂定中梅花流の発展を御照鑑あらん事を。一言蕪辞を述べて弔辞と致します。

特派巡回報告

福島会津人情の巻



由利郡仁賀保町院内
禅林寺副住職
山中律雄

◎六月十九日(水)

喉が痛い。特派巡回の近いこともあって
大事をとり医者に行く。曰く「おーおー喉
が真赤、真赤」と少し楽しげである。抗生
剤を処方してもらい一件落着。帰りに通り
すがりの某神社にてオミクジを引く。

○此のみくじにあふ人は順調に帆をあぐ
るがごとし。神明をうやまひ信じていよ
よ吉 ○病人本ふくすべし。ゐらんなれ
ば本ふくなし(中略) ○旅立ちよし。道
にてゆだんすべからず ○生死は十に八九
は生く。悪人ならば死すべし。

よし分った。「ゐらん」と「悪人」だ
けに注意すればよいのだ。そして信心。ど
うか「ゐらん」になりませんように。ど
うか「悪人」になりませんように。特派巡
回、事なく円成しますように。ひたすら拝
む。神社の境内、胡蝶花が満開。通り雨に
濡れた白色が冴えざえと実に美しい。

◎六月二十二日(土)

夕刻、福島駅に到着。駅ビルの看板なか
なか印象的「会津の良さは酒の良さ」。

◎六月二十三日(日)

いよいよ講習会が始まる。十二日間の長
丁場、最後まで体が続くかしら、いささか
心配。かつて本で読んだ、海軍「五省」を
思い出す。

○至誠ニ悖ルナカリシカ ○言行ニ恥ズ
ルナカリシカ ○気力ニ欠クルナカリシカ
○努力に憾ミナカリシカ ○不情ニ恒ルナ
カリシカ —— さながら小生は「逆五省」
といったところ。頑張れ。頑張れ。

◎六月二十六日(水)

四会場終了。次の会場は川俣町。かつて
はうどん、そば、養蚕で栄えたところとか。
タクシーの運転手曰く「お坊さん、手打う
どんやそばと言ったって、今日びじゃちょ
っと無理ですよ。ええ、みんな機械でしょ
ね。お祭りの日でもなければ一般の人の口
には入りませんよ。その土地のうどんやそ
ばはその土地の水で打たなきやダメですよ
と流暢な福島弁。町にはやたら「饅飩」の
看板が目につくが、疲れ気味の小生には
「混沌」という看板に見えてくる。

◎六月三十日(日)

本日の会場はラーメンの町・喜多方。会
場に短歌仲間の佐藤スミエさんが訪ねて来
た。巡回中、小生がグリーンプランで取り
上げている短歌の作者で因みに次の二首。

菜の花の群れ咲くはてに飯豊の峰の
残雪光りを返す

ひとつ一つ花小さくて咲き盛る樹齢
千年の桜いたいたし(三春町・滝桜)

◎七月四日(木)

いよいよ最後の講習。各々の会場の参加
者数をまとめてみると千百人にもなる。小
生ごとき者の講習のために集っていただい
た方々に心から感謝。どちら様もお元気で
「一期一会」を実感する。

福島駅の看板を思い出す「会津の良さは
酒の良さ、もとい会津の良さは人の良さ」。

基本作法 (Ⅱ)

坐行の基本は正しい正坐と法具の位置です。

正坐の ポイント

1. 趾^{あし}(足の親指)を軽く重ねる。
2. ひざ頭は少し開いて坐る。
3. 背を伸ばして、軽くアゴを引き、下腹に重心を置く。



念珠は単念珠
左手首にかける

指さきと鼻とほぼ同じ高さ
間は約10cm

ひざ頭が10cm程座布団より前になる

袱紗はひざ頭より10cm程前のの展べる

[撮影協力]

森吉町・奥山 京子様
合川町・北林写真館様

写真で見る



← 釈迦紋が目の高さ

← この間10cm程 顔と鈴の間は20cm程

← 臂は体から少し離して鈴を持つ

← シュモク 撞木は鉦の中心の線上で



← 手首に注目

← 鉦敷の端から約4cmの処に撞木頭をつく

まずやってみる はなしはそれから

シリーズ

おらほの梅花講

ざん 山し寺
ねん 年えん淵
まん 萬りゆう龍

住所 北秋田郡森吉町米内沢
字寺ノ上(第十教区)
設立 昭和五十一年六月
講長 奥山 亮修
講員 約四十名程

森吉町米内沢の町並みを見渡す高台に位置する私達の龍淵寺は、ゆつくりと流れる阿仁川を眺められる心休まる所に在ります。左にお墓を見ながら参道を登ると、観音さまが「すつく」と立っていらつしやいます。隣に並ぶ桜は、花盛りの頃には観音さまに負けじと美しさを競います。右手の本堂前には大きな栗の木が、どっしりと立派なお顔をして立っています。それはのどかなお寺さんです。

私達十二名の梅花講三部は、毎月二回夜七時半より、にぎやかに始まります。

平成四年から三部が始まったようですが、私は一年遅れて仲間にして頂きました。主人の旅立ちにお唱え戴いた御詠歌に、私に出来る主人への唯一の道を見出したのです。御詠歌との出合いは、私の生きがいと

慶弔会の記念写真



なりました。

「心のやみをてらします」涙で字もかすみ、声も出ない淋しさに堪えて、ようやく皆さんに助けられ唱えるようになりました。昭和五十一年、いやもつと前から続いている一部、その後に来た二部の方々との合同練習がある時ありました。何と上手な事か！ 私は身が縮む思いでした。いつも指導して下さる浄福寺の奥山芳

先生は「上手に唱えなくても心で唱えれば良いお唱えが出来る」とおっしゃってくださいます。辛抱強く、解る迄教えてくれます。懺悔文の意味を説明頂いた時には、思いあたる事が沢山あって、見やぶられていたかなど驚きました。

お葬式には、四十人程で三宝御和讃無常御和讃御詠歌をお唱えさせて頂きます。

「良いお葬式でした」と喜んでいただけたら、こんな嬉しい事はありません。

「正しく仲良く明るく」をモットーに、仏道で結ばれたお仲間と素敵な人生を送りたいと思います。

紹介者 講員 御所野恵美子

☎〇二八(73)七六七六

梅花 予定表

- 十一月 一日 開山忌(和)
- 八日 真水
- 十五日 廓然
- 二十二日 高嶺
- 二十九日 成道(和)
- 十二月 六日 明星
- 十三日 報謝(和)
- 二十日 四摂法(和)
- 二十七日 伝心

投稿 『佛との出合い』

私の仏壇には、両親、子供、夫の五人がまつられております。

家での仏事は勿論、家に伝わる観音様、町内の観音様と熱心に信仰してきました。でもお寺へは彼岸とお盆にしかお参りしませんでした。

昭和五十七年の日本海中部地震でお寺も被害を受け、その修復完成の法要で招待を受けてお参りしたのです。昭和五十九年でした。今思えば三宝御和讃でした。初めて和讃を聞いて感動したのです。

それからです、お寺参りは勿論、梅花講へも入講して皆さんといっしょに勉強させて貰っています。もっと早くお寺参りをすれば良かったと後悔しております。

平成二年五月四日の事です。横断歩道で交通事故にあつて左足、右肩、右手首、腰と四ヶ所も骨折して重傷となりました。三回も手術して六ヶ月半も入院してしまいました。

最初の手術は五月八日でした。手術室に入り麻酔がかかり、目の前が暗くなった時

です。お坊さんがうしろ向きに立って、黒い衣に首には白い布を巻いて大声で「舍利札文」を唱えたのです。
「一心頂禮萬徳圓滿釈迦如来心身舍利本地法身法界塔婆」まで覚えていますが、あとはわかりません。気がついたら病室でした。

今にして思えば家の観音様です。お姿がよく似ていました。亡母が病気をした折にも夢に観音様が現われて、母の胸をなでてくれたと話しておりました。

常々「観音様は粗末にするな」と言われて来ました。毎年五月二日と九月二日には札打ちがあり、私の所の観音様にもお坊さんはじめ皆さんからお参りを頂き感謝しております。

この様に快復できたのも御仏のお陰であり観音様のお陰と感謝の毎日です。事故からもう七年経ちました。お陰様で八十歳になりました。これからは、より一層信仰を深めて、出来るだけお寺にお参りしたいと思っております。



能代市
長慶寺梅花構
大塚ハルノ

平成十年

一月

三日 警願(和)
十日 同行(和)

十七日 道交

二十四日 紫雲(釈迦)

三十一日 浄心

二月

七日 涅槃(和)

十四日 不滅

二十一日 高嶺

二十八日 正行(和)

三月

七日 道環

十四日 彼岸(和)

二十一日 香華

二十八日 花祭(和)

四月

四日 歎喜(一)

十一日 観音(和)

十八日 慈光

二十五日 浄光

※テレホン梅花についての
ご希望、ご意見等、お待ちしております。
あります。

〒001-0211

秋田市金足岩瀬字前山三

東 泉 寺 宛

特集

ごころをよむ

(十一)

昨年七月に開催された県北の奉詠大会会場でアンケートをお願いし、皆さまの梅花に対する思いの一端を教えてくださいました。詳しい結果は昨年駒沢大学で行なわれた教化学大会という場で発表しましたが、

ビハーラ アンケート
梅花への思い

アンケートは梅花を通して仏教に触れる機会の多い講員さんの皆さんが、お唱えのなかに何を求め、仏教もしくは曹洞宗をどのように促しているのかを調べるといいう意図で行ったものです。

ここでは紙面の関係で、少し簡略にして報告したいと思えます。（総回答数七百二十、すべて複数回答）
私どもは六年前から「ビハーラ」という会を始め、現代の「生老病死」の四苦の問題に僧侶としてかかわろうと活動してきました。仏教は四苦を克服し安心を得ることを説きます。それでは現代の仏教はちゃんとその役割をはたしているのでしょうか？このアンケートは梅花を通して仏教に触れる機会の多い講員さんの皆さんが、お唱えのなかに何を求め、仏教もしくは曹洞宗をどのように促しているのかを調べるといいう意図で行ったものです。

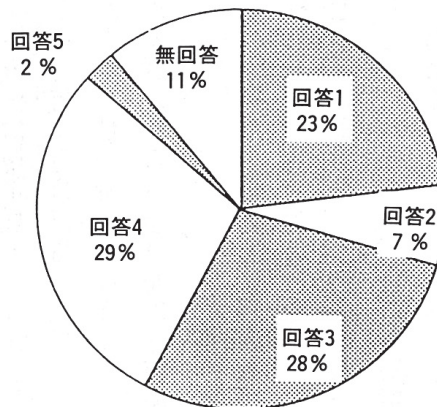
設問 1

梅花講をどのようにして知りましたか。

回答

- 1. 家族や親族の葬儀や法事の際に梅花のお唱えを聞いて 180
- 2. お寺の新聞や掲示板などで 54
- 3. お寺の行事の際に梅花のお唱えを聞いて 225
- 4. お友達や知り合いのはなしを聞いて 227
- 5. その他19
無回答89

グラフ 1



① どのようにして梅花講を知ったかということを知りました（グラフ1）。お葬式などのときよりも、お寺の行事や知り合いの人の話から知る人が多いことが分かります。

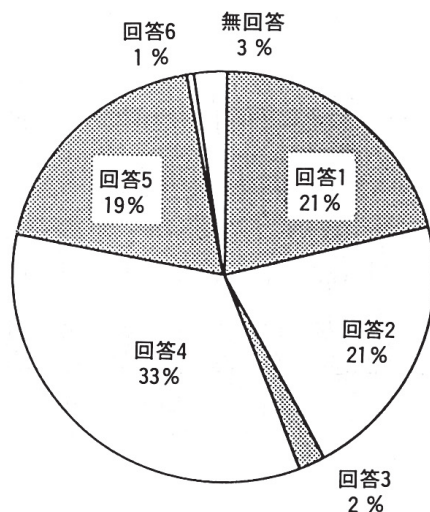
設問 2

梅花講に入講することになった理由をお聞かせください。

回答

- 1. 住職や奥さんの勧めで 199
- 2. お友達や知り合いの勧めで 202
- 3. お寺の新聞や掲示板の募集で 19
- 4. 亡くなった身内の供養になると思ったから 327
- 5. 自分でもお唱えしてみたかったから 180
- 6. その他 6
無回答24

グラフ 2



② 梅花講に入った動機について聞きました（グラフ2）。これは近親者の死が一番多く、次が友達やお寺の人の誘いということですが。お唱えが亡くなった人の供養になるという考えの方が多く分かります。

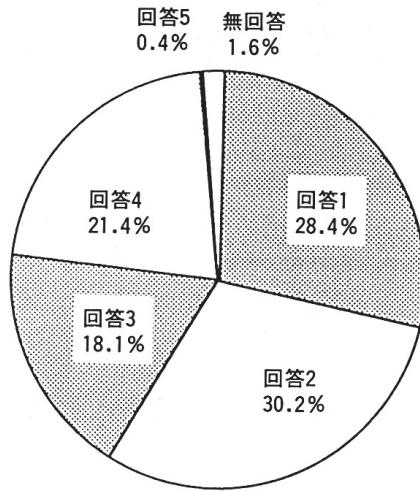
設問 3

梅花講に入講してよかったと思うことはどのようなことですか。

回答

- 1. 曹洞宗の教えに触れることができた 362
 - 2. 先祖の供養になった 385
 - 3. お唱えすること自体が楽しくなった 230
 - 4. 仲間ができた 272
 - 5. その他 5
- 無回答20

グラフ 3



③ 梅花講に入講してよかったと思うことを聞きました。(グラフ3)

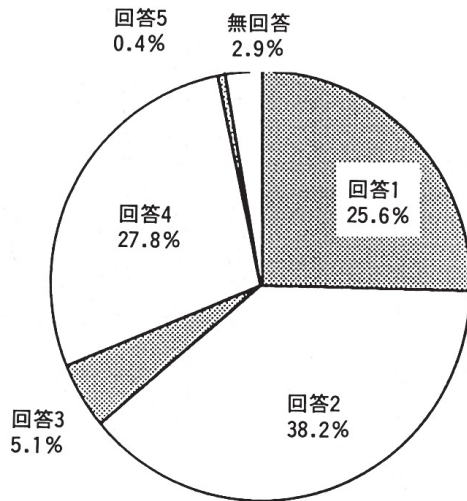
回答数で見ると先の近親者の供養のために入った人より入ってから先祖の供養になったと考えている人が多くなっています。さらに同じくらいの回答が曹洞宗の教えに触れることができたということによせられています。歌詞の説明や住職のお話を聞く機会に恵まれ、梅花を通して曹洞宗の教えに触れている講員さんの姿が見えてきます。

設問 4

これからどのような気持ちでお唱えを続けていきますか。

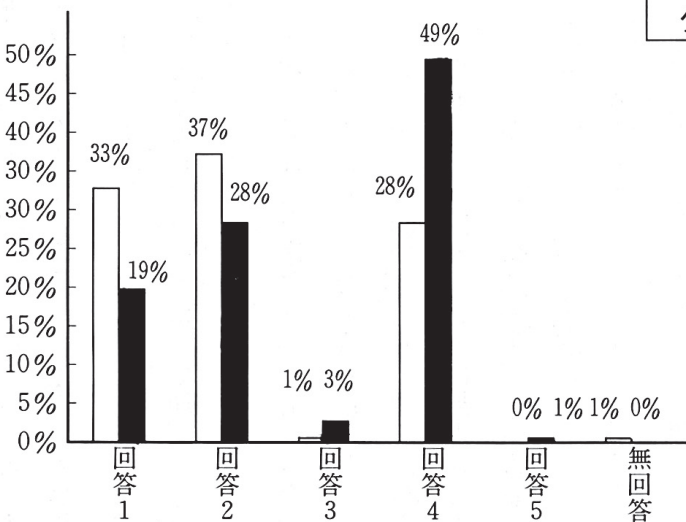
- 1. 曹洞宗の教えに触れ、深く信じるため 292
 - 2. 先祖供養のため 435
 - 3. お唱えが上手くなるように 58
 - 4. 人生の楽しみとして 317
 - 5. その他 4
- 無回答33

グラフ 4



④ ところがこれからどのような気持ちでお唱えを続けますかと聞いたところ、先祖供養のためと答えた人が多くなり、曹洞宗の教えを深く信じるためと答えた人は少なくなります。(グラフ4)

講員になった結果として曹洞宗の教えに触れたけれども、それは実際の生活には生かせるものではなく先祖供養のための教えと受け止められているということでしょうか。



グラフ 5

⑤ もう少し詳しく知るために、グラフ④の結果を講員になって十五年以上の人とそれ以下の人で分けてみました。(グラフ5)

お唱えを長く続けている人ほど、曹洞宗の教えを自らの信仰として見ることが見えます。

← 次頁へ

「アンケートから見える梅花」

梅花流詠讃歌が秋田県で始まったのは昭和二十八〜二十九年ごろといわれています。また正式に梅花講という名称で組織化されたのは昭和三十七年八月二日です。半世紀に近い歴史を経て梅花講も着実に広がりを見せ、お寺の行事の際にも宗教的な声の荘厳として欠かせないものになっています。お寺へのお参りの際にお唱えを聞いたり、何気ないおしゃべりのなかで講員さんから誘われたりして梅花講を知る人が多いことは、梅花講が檀家さんの組織、いわゆる講としてこれまでに無いほどの成長を遂げたことが分かります。

一方で、入講するきっかけの約半分(回答数から見た割合)が近親者の死であるということは、お唱えするという行為のなかに自ら行うことのできる先祖供養であるという思いがある、と見ることができるとは思いません。葬式はお寺と檀家さんを結びあう重要な場ですが、住職さんのお経を聞き合掌するだけでは癒せない悲しみや切なさを、お唱えすることで発露できる

のではないかと思えます。また同じような悲しみを体験をした講員さんとの語りも大きな慰さめになつていられると思われれます。

さらにはお寺さんへ足繁くかようななかで曹洞宗の教えに触れる機会も多くなり、自らの体験の上に教えを重ねて宗教的な安心を得ている姿も見えます。ところが曹洞宗の教えは難解なのでしょうか、自らの信仰として曹洞宗の教えによりどこを求めていくには時間がかかるようです。もとより曹洞宗ばかりでなく仏教は安心のための良薬ですが、即効性のものでなくいわば漢方薬のようにゆっくりと染みてくるものなのかも知れません。すぐに効く薬は副作用も強く、新興宗教のようなものになるでしょう。

● 思いと願い ●

梅花流詠讃歌は歌詞の中に深い教えが説かれていきます。またお唱えの一つ一つの作法が仏の作法として細かく指導があります。身と心を落ち着け教えの言葉を唱えするということはまさしく仏道を行じているといえるでしょう。お唱えの生活を続けていくうちに曹洞宗の教えを人生のよりどころ

としていく人が増えているという結果は、その数字は別にして喜ぶべきことだと思えます。宗侶の側に課せられた今後の課題としてはその数字をいかにして伸ばしていくのかということであると思えます。

先祖供養は曹洞宗にとっても大きな仕事であり、かけがえのない人を亡くした悲しみを癒す大きな力でもあります。講員さんの欲求もそこに向かうことは無理からぬことです。が、さらに進歩、人生の安心を求める信仰としての曹洞宗になることが梅花の最終目的であり、そのための梅花講として発展することができればと願ってやみません。

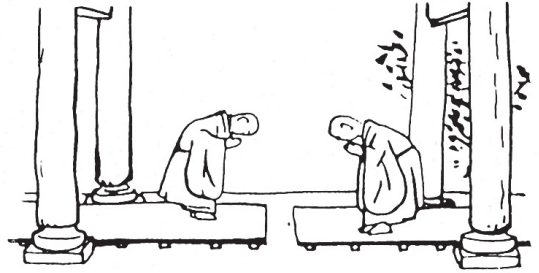
アンケートへのご協力を感謝申し上げますと共に、つたない考察に対しご批判ご提言を頂きたいと思えます。



藤里町
月宗寺住職
袴田俊英

チョット ぶじょう

同行同修の慶び



が把握出来ないやうで大変でした。

回を追うごとに覚える曲数が増えていき、一曲了るごとに、前の曲を忘れていき、中途半端な覚え方なようでした。

養成所は約八十人位おりましたが、あまり練習しなくても覚えて出来る人と、練習してもあまり進歩しない人(自分も含む)がいて、最終六日目

では認定検定を受け、自分では緊張のあまり、どのようにお唱えし、所作をしたのかわからなかったのです。

了ってみると全員合格して、晴れて四級師範にしていたできました。

これも、所の皆さんの

同行同修の気持ちの表われではないかと思えます。

養成所を了えて、梅花講の皆様と練習、お唱えしておりますが、勉強不足で質問されても、直ぐに曲が出てこないという、自分でも情けなくなる状態で、自分なりに一生懸命にやらせてもらっています。



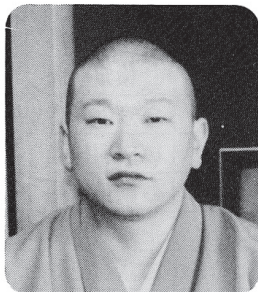
今の梅花講は、一生懸命に検定をうけて互に切磋琢磨して、活気づいている講と、検定には目もくれず数人で和やかにやっている講と二通りあると思います。

検定をうけて合格・不合格の事で、ともすると講員さんの間でいざこざが起きる事もありますし、片や和やかすぎて人がいなくなったりしています。

どちらがよいのかわかりませんが、梅花流詠讚歌発足45周年を迎えて、もう一度梅花のありかたを考えたいと思います。

自分勝手な事ですが、同行同修の慶びをもって、互いに心楽しく詠讚歌をお唱えし、お唱えることによつて心が落ち着くことが大事ではないでしょうか。

自分でもそのつもりで、お唱えして行きたいと思えます。



協和町
太寧寺住職
伊藤道人

私は平成七年六月より平成九年二月まで計六回開催する、第十一期梅花流師範養成所に行かせていただきました。何となく始めた詠讚歌も養成所に行くにつれて、難しさ、奥深さを身にしみて実感させられました。入所当時は、五・六曲位しかお唱え出来ない状態でしたので養成所で全曲を覚えれるのか、少々戸惑っていました。一回目からイロ・ツヤなどの旋揺を勉強し、新曲(自分に見れば)を覚えていくという事で頭がこんがらがるやら、曲

創立四十五周年記念大会



秋田県の登壇奉詠



開会式 5/20・21 東京武道館

禅センター梅花講習会

●檀信徒講員講習会●

(午前10時30分～午後3時30分まで)

月日	曲目
12月12日	成道御和讃・明星
2月13日	涅槃御和讃・不滅
3月13日	高嶺・浄心

●宗侶・寺族講習会●

(午前10時30分～午後3時まで)

月日	曲目	講師
11月17日	修行御和讃	柴田弘一師
2月16日	讃仰御和讃・法灯	佐々木禪壹師

秋田市泉三嶽根15-18 ☎0188-68-6871

秋田県梅花流師範会役員名簿

平成9年3月改選 任期2年間

役職	氏名	寺院	教区	担当役割
会長	丹生純雄	相川寺	12	
副会長	柴田弘一	東泉寺	2	○検定研修
副会長	佐藤舜英	温泉寺	18	
顧問	佐藤道機	泉流寺	3	
顧問	亀谷健樹	太平寺	10	
顧問	加藤信三	宗福寺	18	
顧問	佐藤仁鳳	金應寺	18	
監事	荒川高明	龍江寺	9	
監事	奥山芳寿	浄福寺	10	検定研修
幹事	矢萩宗一	慶祥寺	3	宗侶・寺族研修
幹事	近藤俊貞	円通寺	3	○講員研修
幹事	本間俊英	恵林寺	4	○宗侶・寺族研修
幹事	柿崎隆穂	東山寺	5	宗侶・寺族研修
幹事	伊藤道嗣	龍巖寺	8	
幹事	茂林愛子	鳳来院	9	講員研修
幹事	佐々木禪壹	徳昌寺	9	検定研修
幹事	柳川浩二	玉鳳院	9	○宗侶・寺族研修
幹事	保坂春聴	新田寺	10	○広報担当
幹事	岩館祖芳	恩徳寺	11	○講員研修
幹事	本間雅憲	普門院	12	講員研修
幹事	鈴木道雄	自性院	13	○講員研修
幹事	山中律雄	禅林寺	14	講員研修
幹事	小野碩瑛	大慈寺	16	宗侶・寺族研修
地区担	三浦昌彦	鱗勝院	1	宗侶・寺族研修
地区担	武田俊英	松源院	9	宗侶・寺族研修
地区担	金沢一弘	吉祥院	11	宗侶・寺族研修
会計	佐々木賢龍	耕田寺	10	
事務局	佐藤俊晃	龍泉寺	18	

編集後記



◎みなさんに迷惑を掛けてしまいました。原稿を寄せてくれた方、印刷所、読者の方々、師範会役員の皆さんと多くの方々に行の遅れをお詫び申し上げます。

◎ビハリアアンケートは、檀信徒講員さんは勿論ですが、宗侶の皆さんに読んでもらえればと思つて載せました。

◎各ページ欄外の「真言・名言」のいくつかは、七月に協和町の福城寺様で行われた元漫才師の獅子てんや氏の講演会より選んだものです。梅花講員となつて五年目ださうです。録音テープをくださいました福城寺様に誌上を借りて感謝申し上げます。(春聴記)

◎次号は二月中に発行予定です。(春聴記)